



日本液炭

N-Eco



会 社 案 内

炭酸ガスの可能性に挑み、生み出した実績。

医療機器の滅菌をはじめ、博物館や文化財の殺虫・殺カビ、工場や施設の害虫防除など、日本液炭が製造するガスは、さまざまな分野で活躍しています。

滅菌が要求される医療、産業分野はもちろん、貴重な文化財、古文書および資料などを後世に引き継ぐため、毒性によるリスクを低減し、安全性を配慮したガスをお届けします。

さらに、私たちはお客様の要望にお応えするべく、冷媒用ガス、アンモニア、窒素、酸素など各種工業ガス分野にも活躍の場を広げています。

私たちは、高品質なガスの供給を通じて、お客様のあらゆる課題に対応できる企業を目指します。



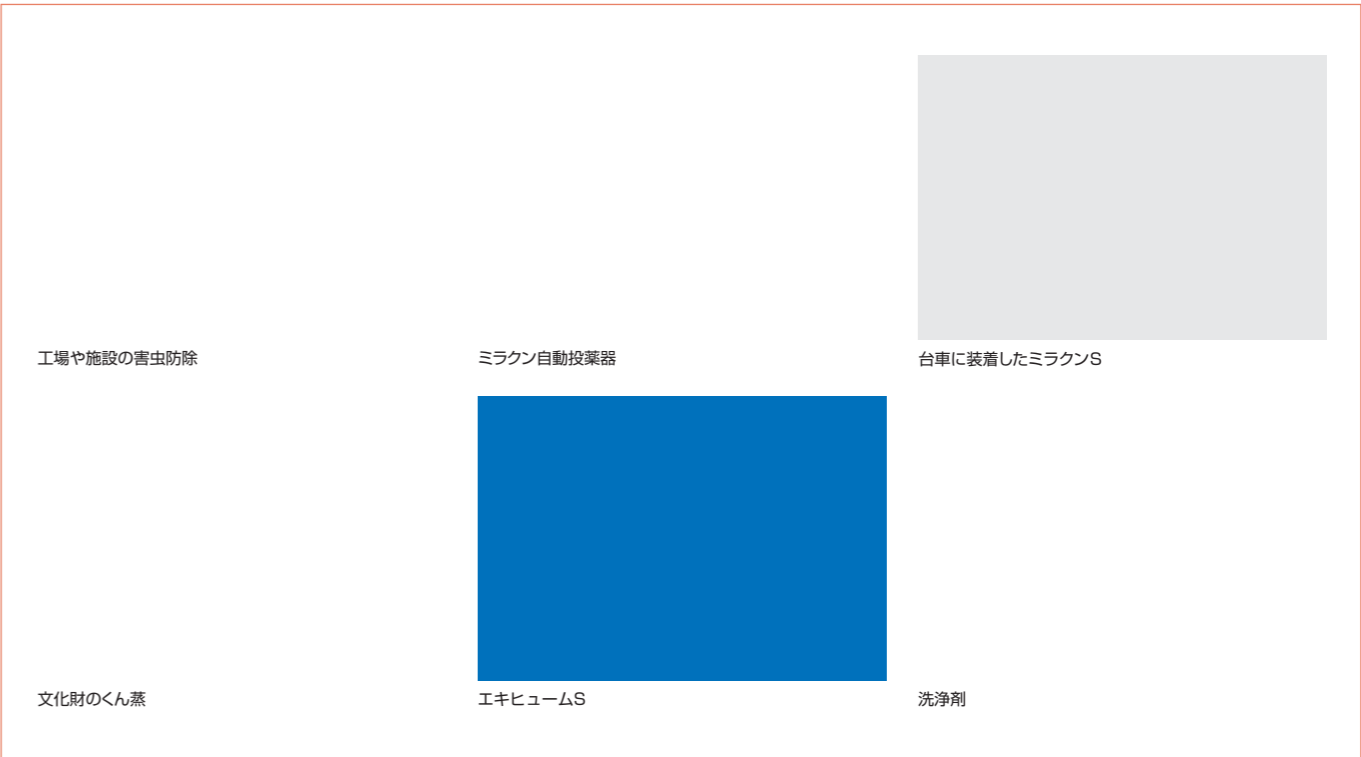
● ガス営業部 各種ガス

- **殺菌ガス(カボックス)**
酸化エチレン滅菌ガス(EOG)は、比較的低温で強い殺菌力を発揮します。被滅菌物への浸透性に優れ、金属腐食をはじめ、プラスチック類に変形、変質の悪影響を与えない殺菌剤として、長年にわたり医療用、産業用として幅広く使用されています。特に病院向け医療用カボックスは容器を小型化し、薬剤の残量が確認できるアイバルブと安定した組成のガスを取り出せる特殊サイホンを装着しています。
- **殺虫剤(ミラクンS、ミラクンGX、ミラクンPY、ブンガノン)**
ミラクンS・GXは、ピレスロイド剤、ミラクンPYは、天然抽出物を炭酸ガスに直接溶解した新しいタイプのPCO防疫用殺虫剤です(医薬品)。乳剤や油剤と異なり希釈の必要がなく、ドライでフラッシング効果と即効性に優れています。ブンガノンは、不快害虫を対象とした文化財用防虫忌避剤です。木材、竹、布、紙、菓製品などを加害する不快害虫の防虫施工に使用できます。
- **文化財くん蒸ガス(エキヒュームS)**
(財)文化財虫害研究所の薬剤認定(登録番号第16号)を取得した、文化財くん蒸に適した薬剤です。文化財への影響が少なく、殺虫・殺カビ防除薬剤として生物被害から文化財を守ります。

- **文化財用炭酸ガス(農薬用炭酸ガス)**
天然物でもある炭酸ガスは、人にやさしい殺虫剤といえます。あらゆる有効な防除手段を合理的に併用して、生物被害を減らす総合防除を目指します。環境の調和と生物被害の防止を基本理念とし、総合的手法で文化財を守っていきます。
- **冷媒ガス(各種フロン冷媒)**
地球環境の保護と豊かな生活の両立をテーマに、お客様に最適な冷媒をお届けします。
- **洗浄関連商品**
洗浄剤、洗浄機、洗浄関連機器。
- **各種関連機器**
殺菌関連機器、殺虫関連機器、くん蒸庫、EOG滅菌装置、EOG除害装置。

● **各種工業ガス**
日本液炭は、大陽日酸グループのネットワークを通じて、各種工業ガスをお届けします。

各種フロン	アンモニア	酸素	窒素
アルゴン	ヘリウム	LPG	消火用ガス
標準ガス	混合ガス	高純度ガス	その他



未来を先取りする、価値ある商品をご提案。

日本液炭は炭酸事業に関連し、保冷剤や低温物流機器・資材をはじめ、さまざまな製品を取り扱っております。なかでも近年関心の高まっている環境問題への取り組みとして、わが国の物流を支える運送業界に向けて、大型トラックなどディーゼル車から排出されるNOx(窒素酸化物)を軽減するSCRシステム専用AdBlue®(高品位尿素水)の販売事業を展開しています。「炭酸ガスの有効利用」と同様に、「環境にやさしい社会」を実現する手段のひとつと考えています。



商品
営業部門

PERFORMANCE PRODUCTS

高品位尿素水「AdBlue®」は、ディーゼル車の排ガスに含まれるNOx(窒素酸化物)を低減。

「ポスト新長期排出ガス規制」に対応した尿素SCRシステム
現在、世界で最も厳しい排出ガス規制値をもつ「ポスト新長期排出ガス規制」において、尿素SCRシステムはディーゼル車から排出されるガス中のNOx(窒素酸化物)削減に貢献する画期的なシステムとして注目を集めています。このシステムは、エンジンに軽油を高圧噴射し高温で燃焼させることで、PM(粒子状物質)の発生を抑制し、次に排出ガスに高品位尿素水を噴射し、化学反応によってNOxの分解を可能にしています。

日本液炭の高品位尿素水「AdBlue®」
日本液炭は、東北から九州まで各地にAdBlue®の出荷基地を設置し、全国のお客様に安定供給を実現しています。また、お客様のニーズに合わせて最適な商品をお選びいただけるように、10Lから1000Lまでさまざまな容器を用意するとともに、専用便でお客様の容器に給水する「巡回給水サービス」も行っています。

AdBlue®はドイツ自動車工業会(VDA)の登録商標です。
製造元: 日本化成株式会社



ディーゼル車排ガス処理用AdBlue®(高品位尿素水)

主な取扱商品

AdBlue®(高品位尿素水)

5L・10L・20Lバックインボックス、20Lポリ缶、200Lドラム缶、1000Lコンテナ、巡回給水、電動ポンプ、手動ポンプ。

低温物流資材

保冷剤、保冷容器、保冷カバー・シート、発泡スチロールボックス、生体輸送用容器。

環境商品

活性炭(粉末炭、粒状炭、造粒炭)、水処理剤、環境機器。

工業関連商品

物流資材、空調機器、高品質薬品、工業用薬品。

食品関連機器・資材

冷凍冷蔵設備、各種フリーザー、フィルム・袋、包材、トレー・コンテナ。



AdBlue®巡回給水車



活性炭



低温物流資材

さまざまな工夫で、炭酸ガスを有効利用。

日本液炭は、先進的な製造設備を稼働させ、高品質の製品を安定して製造・供給しています。製造工程においても、炭酸ガスの大気への放出を極力抑えるため、さまざまな工夫を施しています。液化炭酸ガス・ドライアイスの主な工場では原料ガスをパイプラインで受入。ドライアイス製造設備では、ドライアイス製造により発生した炭酸ガスを再度回収し、ドライアイスの原料として再利用しています。環境への万全な配慮のもと、全国のお客様に迅速に製品をお届けしています。



地球の未来と、豊かな社会のために。

日本液炭は、より環境にやさしい炭酸ガスの有効利用とともに、炭酸ガスの新たな用途を創造するための新技術開発に挑戦しています。お客様のもとで得られた事例や、大学の研究室との共同研究、学会での意見交換などで得られた情報を最大限に活用しています。これまでになかった用途の開拓や新型機器の設計・製作など、豊かな社会の実現を目指し、新しい夢に絶えず邁進しています。さらにはドライアイスや熱媒体を組合せた「品温管理」の研究をはじめ、現在、お届けしている製品についても常に研究を重ねる体制を整えています。



水島工場



黒崎工場



国際炭酸社千葉工場



関東総合ガスセンター



関西総合ガスセンター

● 顧客サービスと密着したデータ解析



「気温30℃で10kgの生肉を5時間保冷する場合、ドライアイスは何kg必要か?」。さまざまな条件下での最適データをお客様にご提供できるように、恒温室を使用した解析を行っています。

● 新たなニーズをつかむ製品開発



液化炭酸ガスおよびドライアイス等の利用応用機器装置の開発を積極的に行っています。常にお客様の視点に立ち、ニーズを先取りした装置やシステムの開発に努めています。

● 妥協を許さない品質管理体制



各地の製造工場/充填工場の現場で、液化炭酸ガスやドライアイスなど各製品の成分分析を定期的に行い、製造工程管理、改善も行うなど、徹底した品質管理に努めています。

■ 新たな用途、新技術の開発

お客様のニーズに合った製品開発はもちろん、企業や大学の研究室との提携、学会への出席などを定期的に行い、新装置の研究・開発に役立たせています。

ドライアイス加工装置

自動切断装置の開発により、従来の手作業から自動化に成功。

品質管理技術

温度を変化させたくない品物を保管、輸送するため、さまざまな熱媒体や特殊容器を開発。

炭酸ガススペース混合ガス

医療分野をはじめ、文化財保護や工場の害虫防除など、各種分野で炭酸ガススペースの混合ガスを開発。

ドライアイス洗浄装置

有機溶剤などを使用しない環境保全型の洗浄方法として、ペレットやパウダー状のドライアイスを使用。

全国規模のサービス拠点、 信頼のネットワークでお客様をサポートします。

日本液炭では、全国を網羅する営業拠点、生産拠点を整備しております。
 十分な生産機能を有する製造工場。お客様のニーズに合わせた
 充填・加工を担うガス・ドライアイスセンター。
 さらには、保安全管理、メンテナンスなども、
 信頼のネットワークがお応えします。
 お客様が必要な製品を必要な時に、迅速にお届けできること。
 それが安定供給体制のあるべき姿であると考えています。



本社 (東京都港区)
支社
 東北支社 (宮城県仙台市)、関東支社 (東京都北区)、
 中部支社 (愛知県海部郡)、関西支社 (大阪府大阪市)、
 中四国支社 (広島県広島市)、九州支社 (福岡県福岡市)
支店・営業所
 北海道支店、北関東支店、京葉支店、京浜支店、神戸
 支店、京滋支店、岡山支店、四国支店、北九州支店、
 いわき営業所、新潟営業所、高崎営業所、静岡営業所、
 富山営業所
工場
 水島工場、黒崎工場

ガスセンター
 東京ガスセンター、関東総合ガスセンター、船橋ガス・
 ドライアイスセンター、川崎ドライアイスセンター、名古屋ガスセンター、関西総
 合ガスセンター、黒崎ガスセンター
ドライアイスセンター
 仙台ドライアイスセンター、船橋ガス・ドライアイスセ
 ンター、川崎ドライアイスセンター、名古屋ドライアイス
 センター、京都ドライアイスセンター、堺ドライアイス
 センター、広島ドライアイスセンター、北九州ドライ
 イスセンター、福岡ドライアイスセンター

液化炭酸ガス生産基地 所在地
 室蘭市、市原市、横浜市、新潟市、富山市、知多市、
 四日市市、堺市、倉敷市、坂出市、北九州市
日本液炭 関係会社
 国際炭酸株式会社、株式会社ステリテック、上毛天然
 瓦斯工業株式会社、サーン日炭株式会社、東京炭酸株
 式会社、知多炭酸株式会社、大阪炭酸株式会社、近畿
 炭酸株式会社

沿革

液化炭酸株式会社		日本炭酸株式会社			
1923年(大正12年)	6月	神戸液化炭酸合資会社を設立。 コークス燃焼法により 液化炭酸ガスの製造を開始。	1937年(昭和12年)	9月	日本炭酸工業株式会社を設立。 日本化成工業社(現三菱化学社)と 日本水産社(現ニチレイ社)との折半出資 により、日本炭酸工業株式会社として発足。 日本ドライアイス社の業務を継承し、 ドライアイスの販売を開始。
1925年(大正14年)	6月	神戸液化炭酸合資会社の事業を継承し、 液化炭酸株式会社として改組。	1963年(昭和38年)	2月	液化炭酸ガスの販売を開始。
1963年(昭和38年)	10月	日本で初めて酸化エチレンを薬剤として、 液化炭酸ガスを希釈剤に使用する 殺菌ガスの開発に成功。	1970年(昭和45年)	5月	商号を日本炭酸株式会社と改める。
	12月	殺菌ガスの販売を目的に、 日本ガス殺菌工業社(現ステリテック) を設立。	1979年(昭和54年)	10月	近畿冷熱社(現リキッドガス社)、 製鉄化学工業社(現住友精化社)、 昭和炭酸社と共同して近畿液炭社を設立。
1973年(昭和48年)	11月	日本酸素社(現大陽日酸社)との 折半出資により、国際炭酸社を設立し、 千葉工場を建設。	1981年(昭和56年)	6月	東邦冷熱社、中部冷熱社、 三菱化成工業社(現三菱化学社)と 共同して知多炭酸社を設立。
1978年(昭和53年)	10月	ほくさん社(現エア・ウォーター社)、 三井東圧化学社(現三井化学社)と 共同して共同炭酸社を設立。	1982年(昭和57年)	4月	東京冷熱産業社(現東京ガスケミカル社)、 三菱化成工業社(現三菱化学社)、 三菱商事社と共同して東京炭酸社を設立。
1990年(平成2年)	10月	埼玉県久喜市に 開発研究センターを開設。	2000年(平成12年)	9月	大陽東洋炭酸社(現大陽日酸社)の 100%子会社となる。
2003年(平成15年)	7月	国際炭酸社の千葉工場を閉鎖し、 新工場を建設。	2004年(平成16年)	4月	リキッドガス社、昭和炭酸社と 共同して大阪炭酸社を設立。
				10月	液化炭酸ガス充填場、 ドライアイス加工センター、 研究施設を集約し、船橋事業所を開設。
				12月	三菱化学社の炭酸事業に係わる 製造部門を譲受(水島工場・黒崎工場)。
	2005年(平成17年)	9月	共同持ち株会社である日本液炭ホールディングス株式会社を設立。		
	2007年(平成19年)	10月	液化炭酸株式会社、日本炭酸株式会社、日本液炭ホールディングス株式会社の3社が合併し、 更に大陽日酸株式会社の炭酸事業部門を統合することにより、日本液炭株式会社が発足。		
	2009年(平成21年)	6月	上毛天然瓦斯工業社を買収。		



TOTAL SOLUTIONS 大陽日酸グループのトータルソリューション

日本液炭は、「大陽日酸株式会社」のグループ企業です。
 各種ガスおよび関連商品を扱うグループ各社との協力体制により、
 お客様のニーズに的確に応える最善のソリューションをお届けします。



日本液炭株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-16-7 大陽日酸新橋ビル
TEL: 03-3500-0711 (代) FAX: 03-3500-0780
<http://www.n-eco.co.jp>